

1 概要

(1) 沿革

旧師団司令部跡時代 昭和 26 年 (1951) ～昭和 35 年 (1960)

- 昭和 26 年 3 月 ● 3 月 20 日、第 1 回定例市議会に議案として、博物館設置を提出。旧第六師団司令部跡に設置することについて可決 (29 日)。
 - 27 年 2 月 ● 市議会にて熊本博物館条例可決 (2 日)。第 2 館 (熊本城宇土櫓) 開館 (4 日)。
 - 4 月 ● 文部省より博物館相当施設の指定を受ける (17 日)。
 - 6 月 ● 熊本博物館第 1 館 (旧第六師団司令部跡) 開館 (5 日)。第 1 館は自然科学・人文科学関係、第 2 館は人文科学の歴史資料を展示。
 - 28 年 11 月 ● 熊本博物館条例制定 (7 日)。
 - 30 年 5 月 ● 山野草展始まる。
 - 34 年 10 月 ● 星を見る会始まる (平成 5 年 7 月まで、通算 401 回で中止)。
 - 35 年 9 月 ● 熊本城天守閣落成式。熊本博物館分館として発足 (22 日)。
 - 10 月 ● 天皇・皇后両陛下下行幸啓 (22 日)。
 - 11 月 ● 熊本博物館本館として、市勧業館 (花畑町 7-17) の 2 階・3 階を使用することになり、移転準備及び移転作業 (15～19 日)。
-

勧業館時代 昭和 36 年 (1961) ～昭和 53 年 (1978)

- 昭和 36 年 2 月 ● 熊本博物館本館 (花畑町 7-17) 再開館。本館は人文資料 (2 階)、自然資料 (3 階) を展示。分館は郷土資料 (1・2 階)、考古資料 (3 階) を展示 (1 日)。
 - 37 年 5 月 ● 皇太子殿下・皇太子妃殿下下行啓 (12 日)。
 - 40 年 8 月 ● 博物館夏季学校始まる。
 - 41 年 6 月 ● 熊本博物館規則制定 (11 日)。
 - 44 年 7 月 ● SP レコードコンサート始まる (6 日)。博物館友の会発足 (12 日)。
 - 48 年 6 月 ● 立田山ヤエクチナシ (国指定天然記念物) 調査で再発見 (13 日)。
 - 49 年 5 月 ● 蒸気機関車 9600 形、国鉄 (現 JR) より譲渡 (12 日)。
-

新館建設の経過 昭和 47 年 (1972) ～昭和 53 年 (1978)

- 昭和 47 年 7 月 ● 熊本博物館建設準備委員会、第 1 回開催 (7 日)。以後、会議を重ねること 10 回。答申案を総括する。
 - 48 年 7 月 ● 熊本博物館建設準備委員会より、熊本博物館建設に関する答申が市長へ提出される (31 日)。
 - 49 年 4 月 ● 黒川紀章建設都市設計事務所に基本設計委託 (9 日)。
 - 7 月 ● 基本構想の決定 (11 日)。
 - 10 月 ● 基本設計の完了 (1 日)。
-

-
- 51年 1月 ● 建築工事起工式（12日）。
 - 52年 6月 ● 建築工事完工（19日）。
 - 12月 ● プラネタリウム設置工事完工（20日）。
 - 53年 3月 ● 展示工事完工（20日）。落成式（31日）。
-

新館（現本館）時代 昭和53年（1978）～

- 昭和 53年 4月 ● 新館開館（1日）。入館者10万人を突破（7月19日）。
 - 54年 11月 ● 国際児童年記念のタイムカプセル埋設式（20日）。
 - 56年 4月 ● 熊本市全域立体地形模型展示施設の取付け完了（2日）。
 - 11月 ● 熊本城城郭模型を制作し、新市庁舎1階ロビーに展示（3日）。
 - 57年 9月 ● 開館30周年記念式典並びに特別展「九州古代のまつり」開催（19日）。
 - 58年 7月 ● 特別展「未来の電話とロボット展」開催（7月23日～8月21日）。
 - 61年 3月 ● 特別展「宇宙の神秘展」開催（3月1日～30日）。
 - 8月 ● 特別展「のりもの展」開催（8月8日～11日）。
 - 63年 3月 ● 特別展「上南部のむら」開催（3月19日～4月3日）。
 - 4月 ● 新館開館10周年記念特別展「夢の乗り物博物館」開催（4月15日～17日）。
 - 9月 ● 新館開館10周年記念特別展「近代熊本のあけぼの展」開催（9月16日～10月31日）。
 - 平成 元年 7月 ● 市制100周年記念特別展「こども科学展」開催（7月25日～30日）。
 - 2年 9月 ● 特別展「錦絵にみる西南戦争展」・「身近な宇宙展」開催（9月21日～10月14日）。
 - 4年 3月 ● プラネタリウム最新鋭機種導入（ドーム16m、217席、自動演出装置）。
 - 4月 ● 特別展「宇宙科学展」開催（4月26日～5月10日）。
 - 5年 5月 ● 博物館周辺整備工事。
 - 10月 ● 特別展「肥後の船と人びとのくらし展」開催（10月1日～24日）。
 - 6年 8月 ● 特別展「ふれあいロボット展」開催（8月12日～21日）。
 - 7年 7月 ● 特別展「天才科学者レオナルド・ダ・ビンチ展」開催（7月22日～8月13日）。
 - 8年 3月 ● 収蔵品展「遺墨にみる西南戦争展」開催（3月2日～17日）。
 - 7月 ● 特別展「化石にみる熊本のおいたち」開催（7月23日～8月11日）。
 - 8月 ● 特別展「蓄音機とレコードの80年の歩み」開催（8月24日～9月1日）。
 - 9年 10月 ● 特別展「明・清名宝と象牙展」開催（10月11日～26日）。
 - 特別展「西南戦争と熊本」開催（10月18日～11月3日）。
 - 博物館改修工事設計委託完了（7月25日～10月31日）。
 - 10年 7月 ● 企画展「世界の蝶展」開催（7月18日～8月2日）。
-

-
- 8月 ● 企画展「星座物語原画イラスト展」開催（8月12日～16日）。
- 9月 ● 博物館改修工事起工（1日）。
- 11年 5月 ● 博物館改修工事完工（31日）。（1月～5月休館）。
- 10月 ● 特別展「加藤・細川両家と熊本城」開催（10月8日～11月3日）。
- 12年 10月 ● 特別展「古写真にみる熊本の明治時代」開催（10月21日～11月5日）。
- 13年 3月 ● 企画展「幻のニホンオオカミ復元」開催（3月16日～31日）。
- 7月 ● 特別展「野山で出会う花たち」開催（7月21日～8月19日）。
- 14年 7月 ● 特別展「熊本博物館 50周年記念収蔵資料公開展」（7月21日～8月18日・24日～9月22日）。
- 15年 9月 ● 特別展「まつりのかたち」開催（9月19日～10月19日）。
- 16年 7月 ● 特別展「毛利宇宙飛行士の部屋」開催（7月24日～8月22日）。
- 18年 2月 ● 特別展「刀剣—その美と肥後の歴史の関わり—」開催（2月18日～3月21日）。
- 7月 ● 特別展「身近な生きものとわたしたち」開催（7月22日～8月27日）。
- 19年 12月 ● 特別展「発掘された日本列島 2007—新発見考古速報展」開催（12月15日～H20.1月20日）。
- 熊本城築城 400年祭特別展示「発掘された本丸御殿」開催（12月6日～H20.1月27日）。
- 20年 7月 ● 特別展「サメ・海のハンター展」開催（7月19日～8月31日）。
- 9月 ● 企画展「昭和の思い出（メモリーズ）展」開催（9月13日～10月13日）。
- 12月 ● 共催展「ドッキ土器大集合展」開催（12月16日～H21.1月18日）。
- 21年 6月 ● 巡回展「台風がやってきた」開催（6月20日～7月20日）。
- 8月 ● 特別展「金峰山のいきものがたりといしものがたり」開催（8月1日～30日）。
- 9月 ● 企画展「横井小楠とその時代」開催（9月18日～10月18日）。
- 12月 ● 共催展「熊本市発掘速報展」開催（12月11日～H22.1月24日）。
- 22年 7月 ● 特別展「よみがえる清正」開催（7月17日～8月29日）。
- 9月 ● 企画展「九州の四大カルデラを探る」開催（9月12日～10月11日）。
- 12月 ● 共催展「熊本市遺跡発掘速報展」開催（12月10日～H23.1月23日）。
- 23年 3月 ● プラネタリウム最新鋭機種導入（ドーム16m、180席）。
- 企画展「宇宙の謎を解き明かす」開催（3月26日～5月8日）。
- 7月 ● 特別展「～サンゴ礁の化石たち～」開催（7月17日～8月28日）。
- 9月 ● 企画展「西海道と肥後国」開催（9月10日～10月16日）。
- 12月 ● 共催展「熊本市遺跡発掘速報展」開催（12月9日～H24.1月22日）。
- 24年 3月 ● リニューアル基本構想・基本計画策定。
- 4月 ● 特別展「熊本博物館開館 60周年記念『肥後の博物学・科学技術—細川重賢の本草学から近代テクノロジーへ—』」開催（4月28日～6月10日）。
-

-
- 7月 ● 企画展「恐竜展 2012 in 熊本」開催（7月21日～9月23日）。
- 12月 ● 共催展「熊本市遺跡発掘速報展 2012」開催（12月7日～H25.1月20日）。
- 10月 ● リニューアル基本設計・実施設計委託（10月16日～H25.3月31日）。
- 25年 7月 ● リニューアル準備のため本館休館。
- 26年 4月 ● プラネタリウム等、一部開館。
- 企画展「のぞいてみよう！身近な草花」開催（4月26日～6月1日）。
- ロビー展「熊本博物館と黒川紀章」開催（4月26日～6月29日）。
- 6月 ● 企画展「南洋への憧れ—熊本博物館収蔵海外資料展—」開催（6月13日～7月13日）。
- 7月 ● ロビー展「藤崎台のクスノキ群」開催（7月1日～9月28日）。
- 企画展「ここがおもしろい！昆虫いろいろ」開催（7月19日～8月31日）。
- 9月 ● 企画展「鳩太郎がゆく！一肥後藩士吉田鳩太郎が見た幕末維新一」開催（9月6日～10月13日）。
- 10月 ● ロビー展「特別史跡熊本城跡」開催（10月1日～12月28日）。
- 企画展「江戸の化粧術—武家婚礼化粧道具を中心に—」開催（10月25日～11月24日）。
- 12月 ● 企画展「稲荷山古墳の出土遺物」開催（12月2日～H27.1月18日）。
- 27年 1月 ● ロビー展「熊本城跡と熊本博物館」開催（1月6日～3月31日）。
- 企画展「博物館のお仕事展」開催（1月24日～2月22日）。
- 2月 ● 企画展「しってるカイ？くまもとの軟体動物化石展」開催（2月28日～4月5日）。
- 3月 ● 企画展「西南戦争古写真展」（4月14日～5月24日）。
- 4月 ● 企画展「くまもと自然探検」（5月30日～6月30日）。
- 7月 ● リニューアルのため本館休館。
- 28年 4月 ● 平成28年（2016年）熊本地震。
- リニューアル工事一時休止。
- 11月 ● リニューアル工事再開。
- 29年 7月 ● 建築工事完了。
- 30年 2月 ● 展示工事完了。
- 12月 ● リニューアルオープン（1日）。
- リニューアルオープン記念展「記憶を未来につなぐ博物館」開催（12月1日～H31.4月7日）。
- 31年 4月 ● 企画展「きらめく！大名道具—細川家の「華」と「武」の世界—」（4月20日～7月7日）。
- 令和 元年 6月 ● 企画展「自然のおいしい味わい方」（6月8日～7月7日）。
-

-
- 7月 ● 特別展「世界の昆虫」(7月20日～8月25日)。
- 10月 ● 特別展「追憶の熊本—画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶—」(10月5日～11月24日)。
- 12月 ● 企画展「生命のれきし—君につながるものがたり—」(12月3日～R1.1月26日)。
- 令和 2年 2月 ● 企画展『旅の巨人』と呼ばれた民俗学者・宮本常一 —熊本で見つけたモノ— (2月8日～3月28日)
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館に伴い2月28日で終了
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館 (2月29日～5月20日)。
- 6月 ● パネル巡回展「深海調査船がみた深海生物」(5月21日～6月21日)。
- 7月 ● 夏季ミニ企画展「ひらいて、見よう！いろいろな巻物」
 『旅の巨人』と呼ばれた民俗学者・宮本常一 —熊本で見つけたモノ—特別編
 「くまはくおうちミュージアムのあゆみ」
 パネル展「宇宙の地平線の向こうに～HORIZONを越えて～」(7月23日～8月30日)。
- 9月 ● がまだすドーム巡回展「1991 雲仙普賢岳噴火災害を振り返る IN 熊本博物館」
 (9月9日～10月11日)。
- 12月 ● 企画展「ひとのすがた、いのりのかたち—肖像彫刻の世界—」(12月5日～R3.1月24日)。
- 共催展「熊本市 2020 遺跡発掘速報展」(12月12日～R3.2月7日)。
- 令和 3年 2月 ● 企画展「博物館でひな祭り!!」(2月6日～3月7日)。
- 3月 ● 企画展「震災をふりかえる—大地とモノが語る熊本地震—」(3月20日～5月30日)。
- 7月 ● 特別展「銀河鉄道の夜—KAGAYA 星空の世界展—」(7月17日～9月5日)。
- 10月 ● 企画展「未来へつなぐ植物の記録—令和2年7月豪雨で被災した前原勘次郎の植物標本—」(10月2日～11月28日)。
- 12月 ● 共催展「熊本市 2021 遺跡発掘速報展」(12月11日～2月20日)。
- 企画展「能楽伝承～熊本の能文化～」(12月18日～2月13日)。
- 4年 2月 ● 創立70周年 (2月4日)。
- 3月 ● 収蔵品展「くまはくコレクション 肥後のやきもの」(3月12日～5月8日)。
-

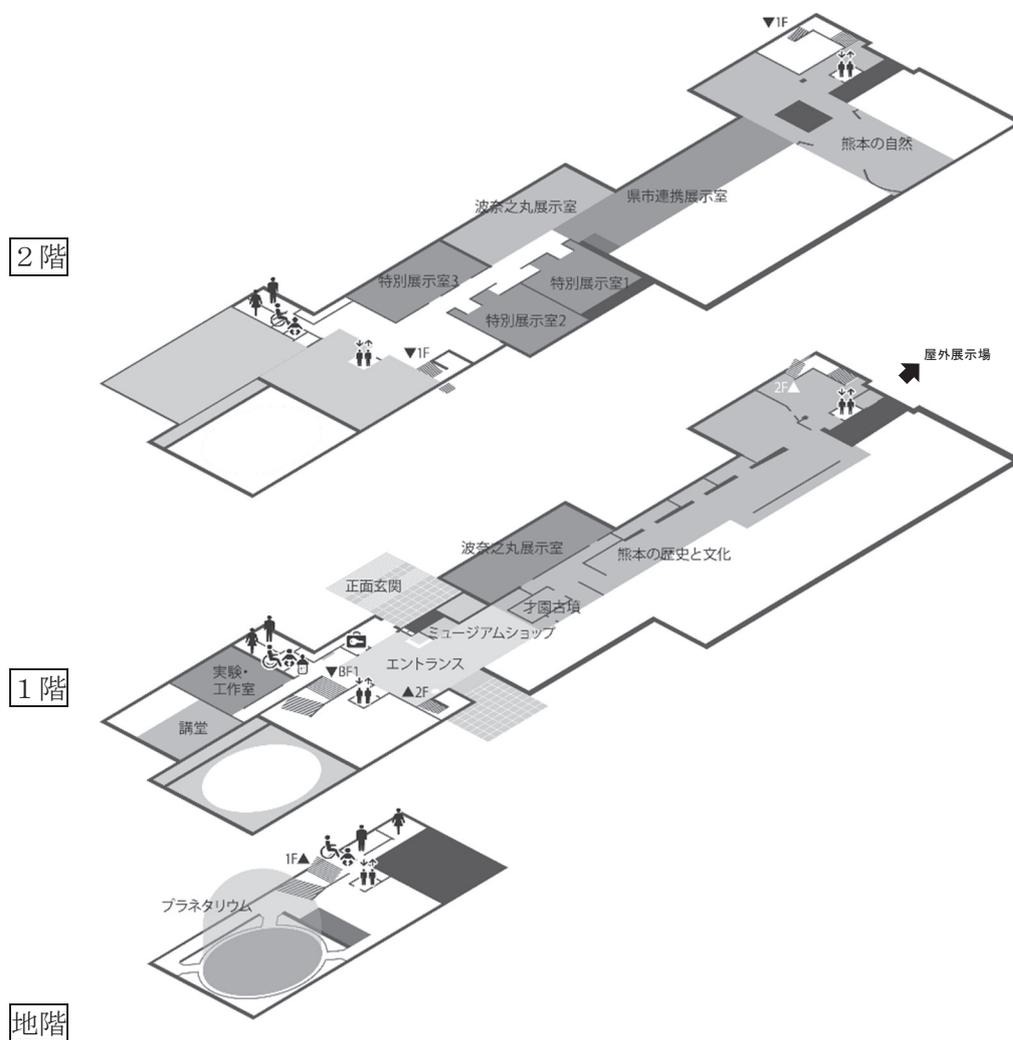
(2) 歴代館長一覧 (敬称略、教育長事務取扱い期間は除く)

館長名	在任期間	備考
初代 佐伯 清太	昭和26年12月～昭和33年3月	専任
2代 堀 光之助	〃 33年3月～〃 38年4月	社会教育課長兼任
3代 森高 清次	〃 38年5月～〃 43年11月	専任
4代 田尻 進	〃 43年12月～〃 44年5月	教育次長兼任
5代 上村 健一	〃 44年6月～〃 54年12月	専任
6代 矢富 齊	〃 54年4月～〃 58年4月	専任
7代 塩見 顯	〃 58年8月～〃 59年7月	専任
8代 清本 俊卓	〃 59年9月～〃 61年3月	専任
9代 西岡 鐵夫	〃 61年4月～〃 62年3月	専任
10代 塘添 亘男	〃 62年4月～平成4年12月	専任
11代 村上 貞昭	平成5年1月～〃 6年3月	専任
12代 豊田 孝雄	〃 6年4月～〃 8年3月	専任
13代 園田 一也	〃 8年4月～〃 9年3月	専任
14代 矢毛 隆三	〃 9年4月～〃 12年3月	非常勤
15代 東瀬 偉一	〃 12年4月～〃 15年3月	非常勤
16代 大橋 康	〃 15年4月～〃 18年3月	専任
17代 古場 賢剛	〃 18年4月～〃 21年3月	専任
18代 藤森 利一	〃 21年4月～〃 22年3月	専任
19代 前野 清隆	〃 22年4月～〃 25年3月	専任
20代 原田 哲朗	〃 25年4月～〃 28年3月	専任
21代 和田 仁	〃 28年4月～〃 30年3月	専任
22代 植木 英貴	〃 30年4月～令和2年3月	専任
23代 田端 文一	令和2年4月～〃 4年3月	専任
24代 竹原 浩朗	令和4年4月～	専任

(3) 施設概要

所在	熊本県熊本市中央区古京町3番2号
建築面積	3971.75 m ²
建造物	鉄筋コンクリート
	地下1階地上2階
竣工	昭和52年6月23日
開館	昭和53年4月1日
設計	株式会社 黒川紀章建築都市設計事務所

館内図 (平成30年12月1日リニューアル以降)



主要室名・面積（概数）

2階		1階	
常設展示室	500 m ²	エントランス	438 m ²
縣市連携展示室	300 m ²	常設展示室	1000 m ²
特別展示室 1	165 m ²	講堂	78 m ²
特別展示室 2	165 m ²	実験・工作室	97 m ²
特別展示室 3	150 m ²	実験準備室	53 m ²
収蔵庫 4	200 m ²	収蔵展示室	200 m ²
収蔵庫 5	89 m ²	収蔵庫 6	175 m ²
展示資材置場	100 m ²	館長室	24 m ²
荷解室	75 m ²	事務室	78 m ²
処置室	20 m ²	学芸室	107 m ²
トラックヤード	60 m ²	書庫	89 m ²
ロビー	200 m ²	資料閲覧・撮影室	19 m ²
地階		会議室・作業室	26 m ²
ロビー	154 m ²	標本作製室	12 m ²
プラネタリウム	292 m ²	守衛室	11 m ²
天文研究室	20 m ²	制御室	6 m ²
地下標本作製室	17 m ²	介護室	11 m ²
収蔵庫 1	56 m ²	授乳室	4 m ²
収蔵庫 2	214 m ²	屋外展示場	1200 m ²
収蔵庫 3	270 m ²		

熊本博物館 70 年のあゆみ

熊本城時代

昭和 26 年（1951 年）～昭和 35 年（1960 年）



設立当時は、現在の天守閣前にあった旧第六師団司令部跡を館舎（第 1 館）、宇土櫓を第 2 館としていた。展示は、松本唯一博士の岩石類と山崎正董博士の貝類標本・古瓦類及び熊本城頭彰会から借入した考古、歴史資料などが主なものであった。

勸業館時代

昭和 36 年（1961 年）～昭和 53 年（1978 年）



現在の花畑広場にあった熊本市勸業館。2 階と 3 階を博物館として利用していた。

新館（現本館）時代

昭和 53 年（1978 年）～

平成 30 年（2018 年）リニューアルオープン



これまでの自然・人文系の展示に理工・プラネタリウムを併設した総合博物館として、熊本城三の丸地区に新築移転した。2018 年 12 月には展示内容を一新してリニューアルオープン。

令和 4 年（2022 年）2 月に創立 70 周年を迎えた。

熊本博物館に最初に伺ったのは、卒論の資料調査でした。その後、昭和 42 年 3 月卒業後、信州を旅行中に実家から「シュウシヨクノハナシアリ、スグカエレ」と電報。博物館で人文担当学芸員を探しているとのこと。取敢えず帰郷して館長面接へ。最後に「どうするか」と聞かれたので、「宜しく願います」と申し上げると、「4 月 1 日から来なさい」これで決定。年度末の 3 月 28 日、私の方向が決まった瞬間です。それから“熊博”70 年史の約半分 33 年間、熊本に根ざした博物館作りに努める事になりました。

博物館本館は昭和 5 年建築の勸業館内にありました。町のド真中ですが、出入口が裏側で、その前はバスの発着場、門札も車体の陰に隠れ、人に知れ難い館でした。

組織は、館長の元に庶務と学芸（自然・人文の 2 分野）の体制です。我々人文科学の執務室は分館である熊本城小天守 2 階。そこで毎朝本館に出勤、打ち合わせの朝会を終えて登城。午後 4 時半を過ぎると下城、本館の終礼で出来事を報告するのが日課でした。

丁度その頃から埋蔵文化財が開発で破壊される例が起き始めました。そこに考古学専攻の学芸員が来たと、熊本市の社会教育課（文化財も担当）はじめ近隣の町村や県からも発掘調査の依頼が舞い込みます。その第 1 号は、勤務の一週間目、千金甲古墳群のミカン園造成地で箱式石棺の調査でした。車もなくスコップを担ぎ、路線バスで出掛けました。

当時の本館は展示も満足でない仮住まい、自然科学の西岡鐵夫さんを中心に館外活動に力を注ぎ、動・植物の見学会や天文観察会などで成果を上げていました。それをお手本に、古墳や寺社などを廻る見学会を行ったところ好評でした。そこで「考古学友の会」を提案、協議の結果、館全体で取り組む「熊本博物館友の会」が昭和 44 年 7 月に誕生しました。

戦後 25 年、豊かになりかけの日本、まだ自家用

車は少なく、パック旅行もない時代です。そこに博物館が学習を主としたバス旅行をやるというので会員は急増、昭和 50 年代には 2,500 人を超す盛況を呈します。遠方では、大河ドラマの舞台を巡る企画などもやりました。『織田信長』の時は「桶狭間」や「長篠」の古戦場は、普通では行かない史跡で、添乗学芸員として勉強になりました。その会も近年解散したとの事、寂しい想いです。

この様な活動から生まれた市民の応援もあって、昭和 47 年 7 月には博物館建設準備室が発足、新博物館に向けて邁進しました。そして、『地域に根ざし／人間生活に密着し／多くの情報を発信する／市民に開かれた博物館』をコンセプトにした館が昭和 53 年春に完成したのでした。近年、展示はリニューアルされ、姿は消えましたが、精神は生きていますと信じています。

おまけにもう一つ。熊本市の姉妹都市にアメリカのサンアントニオ市があります。テキサス独立時の「アラモ砦」で有名な町です。昭和 64 年、熊本の市制施行 100 年を記念して、熊本を紹介する交流団が派遣され、筆者も歴史や文化の展示担当として参加しました。慣れない甲冑を飾っている時、珍しそうに見る 1 人の男がいました。同行の通訳が来て「貴方は何者？」と聞きます。名刺を渡して学芸員だと答えると「学芸員」が判らなく、「Curator」で通じました。翌日の地元紙『サンアントニオエクスプレス』には「Kumamoto Museum curator Koichi Tomita」が大きな写真入りで掲載されていました。しかし、「curator」は日本の「学芸員」より社会的地位が高いらしく、少し面映ゆく残念さを感じました。

熊本博物館は全国の公立館では永い歴史を持った博物館です。館の運営では、常に新しい発想が求められます。その時、これまでの歴史に学び、それを企画に活かしてゆくと、『温故知新』、明るく市民と共に羽ばたく未来の“熊博”が俟っている筈です。